

オルセー美術館

I 太陽の手触り

BS4K 2月2日(日)午後1:50~2:49 ※総合テレビ同時放送

BS8K 2月2日(日)午後6:00~6:59 ほか

II 月の肌触り

BS4K 2月8日(土)午後1:30~2:29

BS8K 2月9日(日)午後6:00~6:59 ほか

世界中どこにいても、いつの時代にも、変わらないこと。

太陽が昇る。昼が来る。月が満ちて、欠ける。夜が来る。

19世紀から20世紀になるころ、画家たちはそんな当たり前の日常をきっちり見つめて描くようになり、印象派をはじめとする“美の革命”が起きた。

オルセーは、その結晶ともいえる美術館。



「太陽」と「月」に導かれてめぐる、オルセー美術館の物語。(NHK・オルセー美術館国際共同制作)

【音楽】中島ノブユキ 【声】イッセー尾形 小林聡美

I 太陽の手触り

ガラスの天窗越しに光があふれているオルセー美術館。所蔵品にもさまざまな「光」が描かれている。マネ「草上の昼食」で太陽の光に照らされる男女。ルノワールが「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」で描いた木漏れ日。モネが「サン・ラザール駅」で魅せられた汽車の煙に乱反射する光…。セーヌ川を眺めているように置かれたガラスのオブジェ、ガレ「海藻と貝殻のある手」を案内役に、太陽や光が印象的な12作品を紹介。



II 月の肌触り

オルセーの作品が生み出された時代、ガス灯の登場を契機にパリの夜は楽しく美しいものになった。ゴッホが「星降る夜」で描いた、星と街灯の輝き。スーラ「サーカス」のような華やかなショーも、ドガ「カフェにて」のような都会の孤独も。そして、モローが「ガラティア」で描いた夢のような世界…。ポンポンの彫刻「みみずく」「しろくま」を案内役に、誰もいない夜の美術館から16作品を紹介。

